



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2005.4

No.252

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



武蔵丘陵森林公園・北口周辺における森林の変遷と鳥類相

—1993年～2005年—

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

埼玉県の丘陵地帯に広がる武蔵丘陵森林公園北口周辺(図1)(滑川町)における、森林植生と鳥類相の調査結果を報告する。

調査概要

繁殖期と越冬期に約1kmのラインセンサス(図1の矢印コース)による鳥類生息調査、400㎡の調査区2ヶ所(図1のY、Y-2)で森林植生調査を5月または6月に実施した。

森林植生の変遷

Yはコナラ、アオハダ、アカシデの高木とアズマネザサが林床に生育する若い二次林である。1999年蓄材量を示す胸高断面積合計4位のエゴノキが2004年全て枯死した(表1、表2)ため総個体数は減少、胸高断面積合計は増加した。

Y-2は1993年1999年、アカマツと萌芽コナラの良く管理された二次林であったが、2004年多くの広葉樹やモウソウチクが侵入し(表2)1mを越えるアズマネザサが林床を覆う林へと激変した。このため個体数と胸高断面積合計は大幅に増加した。

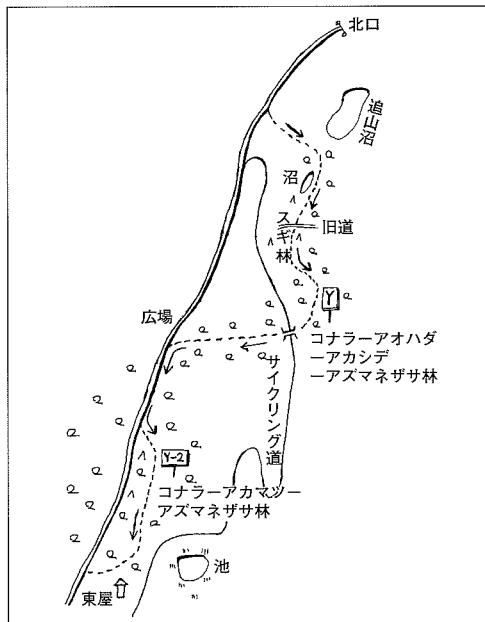


図1 武蔵丘陵森林公園北口周辺

鳥類相の変遷(表3)

繁殖期は当初の15種から21種、越冬期は21種から26種へと増えている。森林の無管理化と生育樹種の増加が林内に様々な環境を作り出し生息種数の増加に寄与している。特定外来生物ガビチョウの繁殖可能性が大きい。

(小荷田行男)

表1 植生調査区での林相の変遷

		樹種数			個体数			胸高断面積合計		
		1993.6	1999.5	2004.6	1993.6	1999.5	2004.6	1993.6	1999.5	2004.6
夏緑 広葉樹	Y	6	5	5	32*	122	96	-	13,635	13,931
	Y-2	4	2	9	29*	30	54	-	4,640	10,952
照葉樹	Y	0	1	0	0*	2	0	-	1	0
	Y-2	0	0	2	0*	0	2	-	0	62
常緑 針葉樹	Y	0	2	2	0*	1	2	-	687	711
	Y-2	1	1	1	23*	27	13	-	7,113	4,191
竹	Y	0	0	0	0*	0	0	-	0	0
	Y-2	0	0	1	0*	0	4	-	0	346
総計	Y	6	8	7	32*	125	98	-	14,323	14,642
	Y-2	5	3	13	52*	57	73	-	11,753	15,551
(単位)		(種)			(本)			(㎡)		

(注) Y: コナラ-アオハダ-アカシデ-アズマネザサ林

Y-2: コナラ-アカマツ-アズマネザサ林

*: 1993年6月の個体数は胸高直径10cm以上のみ。

表2 植生調査区での樹種の変遷

(注) 個体数順に記述

		1993.6	1999.5	2004.6	多 ↑ 少
		夏緑 広葉樹	Y	コナラ アオハダ アカシデ ヤマザクラ、アズキ ナシ、フジ	
夏緑 広葉樹	Y-2	コナラ アオハダ ヤマザクラ、クリ	コナラ アオハダ	コナラ アオハダ リュウブ ヤマウルシ ヤマザクラ、ミツバ ウツギ オニグルミ、ネムノ キ、カキノキ	
照葉樹	Y	—	ヒサカキ	—	
照葉樹	Y-2	—	—	シラカシ、ヒサカキ	
常緑 針葉樹	Y	—	ヒノキ、アカマツ	—	
常緑 針葉樹	Y-2	アカマツ	アカマツ	アカマツ	
竹	Y	—	—	—	
竹	Y-2	—	—	モウソウチク	

表3 鳥類相の変遷

種	日	繁殖期				越冬期			
		1993.6.12	1994.5.29	1999.5.22	2004.6.5	1994.1.30	1995.2.11	2000.2.12	2005.1.22
カイツブリ					○				
カワウ				○				○	○
アオサギ					○				
マガモ						○		○	
カルガモ	○				○	○		○	
コガモ								○	○
オナガガモ						○			
オオタカ							○		○
ツミ						○			
ハイタカ							○		
ノスリ						○			○
ハヤブサ									○
キジバト	○	○			○		○		
ホトトギス	○	○	○		○				
フクロウ					○				
アカゲラ							○	○	
コゲラ	○	○	○		○	○	○	○	○
ツバメ					○				
ハクセキレイ									○
ビンズイ					○				
ヒヨドリ	○	○	○		○	○			○
モズ							○		○
ミソサザイ								○	
ルリビタキ							○	○	
ジョウビタキ								○	○
アカハラ							○		
シロハラ						○	○	○	○
ツグミ						○	○	○	○
ウグイス	○	○	○		○	○	○	○	○
オオヨシキリ				○	○				
メボソムシクイ				○					
キクイタダキ						○		○	○
キビタキ				○	○				
エナガ				○		○	○	○	○
ヒガラ							○	○	○
ヤマガラ						○	○		○
シジュウカラ	○	○	○		○	○	○	○	○
メジロ	○	○	○		○	○		○	○
ホオジロ	○	○	○		○	○			○
カシラダカ									○
ミヤマホオジロ							○		
アオジ						○	○	○	○
カワラヒワ	○	○	○		○	○			○
シメ									○
スズメ	○	○	○		○		○		
ムクドリ	○		○						
カケス						○		○	○
オナガ				○					
ハシボソガラス	○							○	
ハシブトガラス	○	○	○		○	○	○	○	○
コジュケイ	○	○	○		○		○	○	
ドバト						○			
ガビチョウ					○				
種数		15	13	18	21	21	22	22	26

渡良瀬遊水地ミニ通信

内田孝男（総和町）

1月23日は栃木県支部主催の探鳥会がありました。出現種は41種。栃木県支部の集合場所は渡良瀬遊水池会館（この固有名詞は地ではなく池です）。

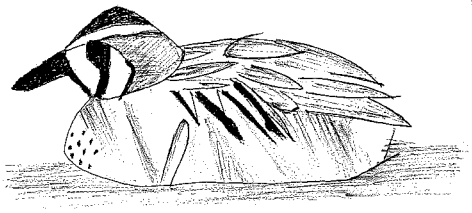
この日はホオジロガモ2番い、カワアイサ6番い、相変わらず多数のヨシガモとカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリをはじめ、一応カモ類の種は確認できた普通の遊水池でした。

28日、古河七小の5年生87名と先生4名を案内。ボランティア5名と仲間6名でヨシ刈り体験をしてもらいました。刈ったヨシは学校に持って帰ってヨシズを編みます。そこから、かつてヨシズ編みはこの地域で生活の一端を担って来た産業であった事、そして、なぜヨシズが産業となったのか、現在はその一部を足尾での植樹のマルチングに使用されていることなどを学習してもらいます。

古河七小は5年程前から関わりを持つようになり、遊水池のみでなく渡良瀬川流域を視野に入れた取り組みを実施してきました。例えば、学校にドングリの里親になってもらうことです。秋の足尾でドングリを拾い、3年保育で、成長した4年目苗木を持参して春の植樹に参加してもらいます。渡良瀬遊水池は、野鳥をはじめ、ここで、例え一時でも暮らす生き物たちにとって、今の環境が必要であることを少しでも感じ取ってもらえたらと思っています。

2月6日はワシタカ・カウント調査。埼玉県支部からは前々会長他7名が参加。4名は

トモエガモ



小2 青木夏美

私が担当のあまり人気のない8番ポイント、3名は7番ポイントについたようでした。夕方、今冬のハイロチュウヒの塘で♀とコチュウゲンボウなどを観察。

11日は埼玉県支部探鳥会。干し上げが進んだ谷中湖は無残。カモ類もいくらかは残ってはいましたが、カンムリカイツブリがこの時期見られないとは。カモ類がある程度観察できてよかった、などという状況ではありませんでした。

でも谷中ブロックの水脈筋にトモエガモがいて感激。渇水時期の時に、水ガメであるべきところに水がない…、地震でも起きて水が必要となった時、どう言い訳するのかな。

夕方、支部会員と初めて参加された親子をハイロチュウヒの塘に案内して観察、子どもたちも大変喜んでいました（お父さんが一番喜んでいました）。

20日。谷中湖はカワウ、セグロカモメ、ユリカモメ、もちろんカモ類もいましたが寒々とした光景。こんな状況で、去年と同様に干し上げ記念イベントとってお祭りをするのでしょうか。

3月7日はNHK総合テレビ（1Ch）午後8時より、渡良瀬遊水池が放映される予定。14日は、有志でヨシ焼きの前のゴミ拾い（年に4回）。21日、ヨシ焼きは8：30より実施予定。そして又春がやってきます。

さらば、「クマちゃんだっこ」の日々

榎本みち子（鴻巣市）

子供達が小さかったころ、お父さんの仕事は鳥を見ることだと思っていた。何か鳥を見て報告すると、ギューッと「クマちゃんだっこ」してもらえるので、三人の子供達は競って鳥を見つけた。特にツバメやカッコウ、ツグミ、ジョウビタキなど季節の鳥の初認はポイントが高く、「クマちゃんだっこ」がスペシャルになるので人気だった。

そんな子供達も21歳、17歳、14歳。相変わらず、鳥を見つければ報告はするが、「クマちゃんだっこ」の権利はお母さんに譲るという。

「クマちゃんだっこ」がご褒美でなくなって、ちよっぴり寂しい夫であった。

九州・出水のタンチョウ

長野誠治（岩槻市）

1月に、世界有数のツルの渡来地といわれる九州・出水平野に行ってきました。ナベヅル、マナヅル、カナダヅル、クロヅル、アネハヅル定番5種（ソデグロヅルは今季飛来が確認されませんでした）に加えて、国の特別天然記念物のタンチョウを見ることができました（下の写真、手前の1羽）。

鹿児島県ツル保護会によると、出水平野では戦前数回タンチョウの飛来を確認されているが、同保護会が記録をとり始めた1962年以降では67年12月に幼鳥1羽が確認されて以来37年ぶりとのことです。

タンチョウはかつて本州各地に渡来する鳥でしたが、狩猟や越冬地の環境悪化が影響し、現在日本では、渡りをしないものが北海道東部で生息するだけになってしまいました。

大陸では中国東北部から極東ロシアの湿原で繁殖し、朝鮮半島から揚子江下流域で越冬しますが、今シーズン出水に現れたタンチョウは、移動途中で親鳥とはぐれてしまい、マナヅルと一緒に日本に渡って来たようです。

1年ほどの幼鳥とのことで、頭部は茶褐色で第一印象は「きたないツル」というのが正直な感想でした。早く立派で「美しい」成鳥に無事に育って、家族や仲間たちと再び日本へ渡って来て欲しいという願いを強くした鳥見の旅になりました。



はみ出し行事案内

神泉村・城峯公園周辺探鳥会

（要予約・支部会員限定）

期日：4月29日（金・祝）～30日（土）

定員に達したので締め切りました。

長野県・軽井沢野鳥の森周辺探鳥会

（要予約）

期日：5月7日（土）～5月8日（日）

集合：7日午前9時30分、JR高崎線本庄駅南口。

交通：往復とも観光バス利用。

帰着：8日午後5時頃、本庄駅南口にて。

費用：14,500円の予定（1泊2食・現地までの往復交通費、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：20名（先着順・支部会員優先）

申込み：普通葉書に住所、氏名、年令、性別、電話番号を明記して、町田好一郎 まで。

担当：町田、新井（掖）

見どころ：初日は軽井沢野鳥の森を散策、2日目は浅間山麓周辺を探鳥、夏鳥たちとの遭遇に期待します。

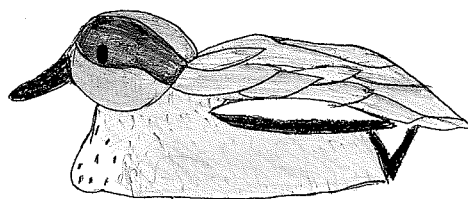
注意：宿泊はTDK軽井沢研修所を利用し、男女別の相部屋で、個室の用意はできません。

長野県・戸隠高原探鳥会

（要予約）

詳細は5月号でお知らせします。

コガモ



小2 青木夏美



野鳥情報

蓮田市黒浜 ◇12月9日、療養所内でシジュウカラ、メジロ、コゲラの混群にヒガラ1羽が混じり、松の木を動き回っていた。12月17日、上沼でハジロカイツブリ1羽。北側の岸の草の上でタシギ1羽。療養所内の林内をハイタカが飛ぶ。シジュウカラ、メジロとともにエナガ5羽。12月22日、上沼でハジロカイツブリ1羽。療養所内でキクイタダキ2羽、トラツグミなど。1月6日、療養所内でオオタカ（鈴木紀雄）。◇12月10日、黒浜沼でオオバン3羽、カイツブリ12羽、カルガモ多数、オナガガモ2羽、カワウ7羽、モズ1羽。葦原でシメ約7羽、カシラダカ多数、メジロ3～4羽、アカゲラ♂1羽。12月22日昼過ぎ、黒浜沼でタシギ4羽、タマシギ♂1羽♀1羽。タシギ観察中に同じ田んぼでタマシギを発見。スコープで目の周りの白斑、脇の白線、♀の首の赤茶色等30分位観察できて、とてもうれしく思いました。田の中で採餌中でした。12月23日、療養所内でアカゲラ♀1羽、アオゲラ♀1羽、コゲラ2羽、シジュウカラ、ヤマガラ1羽、カシラダカ、アオジ、オナガ10羽。12月25日、療養所内でシジュウカラ多数、カシラダカ多数、シメ多数、ツグミ多数、シロハラ1羽、ジョウビタキ♂1羽♀1羽、ビンズイ、赤松の木の上で5～6羽、キクイタダキ3羽、アオジ3羽など。1月2日、療養所内でキクイタダキ2羽、シロハラ3羽、キジ♂1羽、コジュケイ7羽、クロジ2羽、カシラダカ多数、シメ6羽、アオジ5羽、ジョウビタキ♂1羽♀1羽、ツグミ多数など（本多己秀）。◇1月8日、黒浜沼でコハクチョウ若鳥3羽を見ていたらオオタカ若鳥が来て、カモ達が水に入った。弁天社の枯木のとっぺんでアカゲラ♀1羽（玉井正晴、道祖土修一）。

蓮田市江ヶ崎 ◇12月22日、ヒバリ、タゲリ6羽、タヒバリ約20羽、カワラヒワ100羽以上（本多己秀）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇12月9日、オジロビタキを確認。♂ならば第1回冬羽でも喉に赤味があるとのこと、全く白っぽいので♀と思われる。12月13日、オジロビタキを確認。12月14日、ベニマシコ♂1羽、セイタカアワダチソウの実をついばんでいた。12月15日、オジロビタキ1羽。こちらに飛んでくるキジバト大の鳥、ふと見ると、嘴長く、茶褐色。なんとヤマシギが頭上を越えて藪に飛び込んでいった。12月16日、「フィーフィー」と淋しげな声を林内で聞き、確認しようとしたが飛んでしまった。ウソに間違いない。他にトラツグミ、オジロビタキ、ヤマガラ、ベニマシコなど37種確認。12月20日、オジロビタキ一瞬確認。駐車場すぐ脇のブッシュ内にメジロのおとり籠と落葉の中に隠した鳥のさえずりを流しているラジカセを発見。警察に通報し、来ていただいて引き取ってもらった。12月22日、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ユリカモメ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オオタカ若鳥、コゲラ、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、シメ、ベニマシコ、アカハラ、シロハラ、ジョウビタキ、オジロビタキ、カケスなど35種確認。12月23日、オジロビタキ確認。12月24日、オジロビタキ確認。12月25日、オジロビタキ一瞬確認、私にとってはこの日がオジロビタキの終認となる。オオタカ成鳥、ヤマガラ3羽、トラツグミなど。1月2日、カイツブリ、アオサギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、オオタカ若鳥、モズ、ウグイス、メジロ、アオジ、カシラダカ、シメ、ベニマシコ、カケスなど。久しぶりに元荒川でコブハクチョウ1羽。上空、カラスを追いつ追われつものんびり飛ぶ白っぽい鳥、よく見たらコミミズク！元荒川に沿って高空を北へ飛び去った。1月8日、オオタカ、カワセミなど（鈴木紀雄）。◇1月4日、村国池の周辺で大きめのシギを見ましたが識別できず残念。1月5日正午頃、再度同じ場所で発見、識別できました。ヤマシギ1羽。小生は初めて見ることができ、1種増えました（大塚操）。

岩槻市岩槻城址公園 ◇1月5日、黒門の裏の地面でピンズイ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市平林寺 ◇1月10日、赤坂沼でオカヨシガモ16羽、コガモ2羽、カイツブリ2羽、バン幼鳥2羽、コチドリ2羽、カシラダカ多数、オオジュリン、アオジ、シジュウカラ、ツグミ、ウグイス、タシギ3羽、シロハラ1羽、カケス3羽、シメ、オオタカ1羽(上空通過)など(本多己秀)。

さいたま市見沼区深作 ◇12月23日、チョウゲンボウ♀1羽、ホバリング後、草地にまっすぐに降りました。セグロカモメ1羽、当地で初観察(本多己秀)。

さいたま市見沼区南部浄化センター付近

◇1月8日、セイタカアワダチソウの中にベニマシコが数羽、セッカ1羽、アオジ数羽、カシラダカ10数羽、ホオジロ10数羽が飛び交っていた(赤堀尚義)。

さいたま市南区白幡沼 ◇12月27日、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、カワウ(陶山和良)。

さいたま市大宮区大宮第三公園付近 ◇1月8日、芝川の中州にユリカモメ9羽、イカルチドリ1羽、バン1羽、カルガモ5羽、コガモ3羽が仲良く羽繕い。川面にカイツブリ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシハジロ、オカヨシガモ、カルガモ、バンがゆったりと浮かんでいた。カワセミ1羽が下流に飛び去った(赤堀尚義)。

さいたま市浦和区大原サッカー場付近 ◇1月8日、フェンス際の木にアカハラ1羽、休耕田にカシラダカ、ホオジロが数羽、道脇の枯れ草にジョウビタキ♂1羽(赤堀尚義)。

戸田市道満彩湖 ◇12月26日、見事なオオバンの2大グループ。湖面から陸地へ、陸地から湖面への団体移動が見ごたえあり。北右岸56羽、管理橋北右岸27羽。カムリカイツブリ24羽(陶山和良)。

越谷市健康福祉村 ◇1月3日午後2時30分、公園東南でシラコバト2羽。午後3時、公園内の池の葦原でゴイサギ成鳥と幼鳥合わせて200羽以上(小菅靖)。



メジロ 探鳥会に参加するようになって1年。何気なく見過ごしていた身近な鳥の思いがけない美しさ、愛らしさに感動した1年でした。**鞆飼喜雄(深谷市)**

久喜市篠津 ◇12月26日午後1時30分頃、チョウゲンボウ♂♀が代わる代わるホバリングをしていた。♂がすぐ近くの電線にとまったところ、♀が急降下したが、再び飛上がり、またホバリングを始めた(安岡健一・光江)。

深谷市仙元山公園 ◇1月1日、3日、オオタカ、元旦から縁起がいい。キクイタダキ、目の前5mで大サービス。頭頂のキクもばっちり。今年は久々に個体数も多い。アオゲラ♂、柿の実を啄んでいた。トラツグミ、今年も来てくれました。他にルリビタキ、イカル、ノスリ、カシラダカ、アオジ、ヤマガラ、ピンズイ、キセキレイ、シメ、シロハラなど2日で33種(新井巖・文子)。

川島町越辺川 ◇1月16日、昨年に引続き今年もコハクチョウ17羽(内若鳥8羽)飛来。オオバン15羽(藤掛保司・宮子)。

表紙の写真

スズメ目カラス科カケス属カケス

カケスの楽しいところは、自分の名前を呼びながら飛ぶところでしょうか。ジェイジェイと鳴き声が聞こえると、なんだか可笑しくなってしまう。 (編集部注:カケスの英名は「Jay」です。)

レンズの向こうの羽の美しさ! 一枚欲しいな……。上を向いたり、下を向いたり、探しながら歩きます。**古澤洋子(本庄市)**



行事案内



「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。 解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月3日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:40 発で「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野（安）、永野（京）、山野、今井

見どころ：山又山山桜又山桜（阿波野青畝）。

ただ漢字を連ねただけなのに、画とリズムを感じさせる不思議な句。今月の主題は「花と鳥」です。何が出てくれるかは、来てのお楽しみ。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

＜ヘルシーロードコース＞

期日：4月3日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅行き 8:31 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤（芳）、手塚、工藤、倉林、若林、新井（勇）、石田、赤堀

見どころ：春！ いつもの花がメインの探鳥会です。いろいろな花が咲いているコースで、ツバメたちとの出会いを楽しみに歩きます。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：4月3日（日）

集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前 または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:11→春日部 7:25→栗橋 7:54→柳生 8:04 着。または JR 宇都宮線大宮 7:08→栗橋 7:43 着にて、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分一、中里

見どころ：谷中湖の干し上げ実施で残りカモは期待できませんが、谷中湖史跡の村を回り、羽を休める渡り途中の小鳥たちを探します。春とはいえ風が冷たいところ、防寒を忘れないでください。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月3日（日）

集合：午前9時30分西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋（優）、持丸、小林（ま）

見どころ：鳥たちの北帰行が始まっています。湖面をにぎわしたカモたちは減りつつありますが、こんな時季には渡り途中の珍客との出会いも期待できます。アフターで花見の宴というのも一興。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居
8:49発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、石井(博)、
倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、
飛田、新井(巖)

見どころ：春の日差しを浴びながら土手を歩
きましょう。繁殖期を迎え美しくさえ
ずる鳥たちの観察に、満開の桜が色を
添えます。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：4月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、森、小菅、赤堀、新部、青木

見どころ：春は新しい命が生まれる季節。シ
ジュウカラが斜面林で子育てをしています。
探鳥会にも子供たちの参加が増
えました。もっと見沼たんぼの魅力を
探してみましょう。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月24日(日)

集合：午前9時10分、諏訪前橋バス停付近。
交通：京浜東北線浦和駅西口バスロータリー
5番乗り場から、荒川総合公園行き
8:40発にて「諏訪前橋」下車。

担当：倉林、海老原、福井、百瀬、渡辺(嘉)、
新部、赤堀、増田

見どころ：春たけなわ、快い季節になりました。
今年はキビタキ、オオルリだけで
なく、何か他の鳥たちを見たいと思
いませんか。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月24日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を
越えた右側)

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光
バス鳩山ニュータウン行き8:46、9:
00発にて「大東文化大学前」下車、徒
歩約5分(バス進行方向へ進みます)。

担当：島田、岡安、後藤、増尾、池永、高橋
(優)、山田(義)、林、中村(豊)

見どころ：昨年は支部設立20周年を祝うか
のように20種を見られ、中でもエナガの
子育ての観察が印象的でした。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日(金・祝)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐
車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③
番乗り場から、彩光苑・春日部エミ
ナス行き8:45発にて「共栄大学・短大
前」下車。西へ徒歩3分。

担当：石川、吉安、中村(榮)、橋口、新井(良)、
廣川、松永、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、
野村(修)

見どころ：新緑の雑木林に居残り組みの冬鳥
たちとともに、今年も立ち寄る夏鳥と
の出会いが楽しみです。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(金・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシ
ギ・チドリ類の調査を行っています。とくに
下記の地点では、より多くの会員の参加・ご
協力をお願いします。

◆ 大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不
要。雨天でも行います。シギチが大変少ない
こともあります。

● 行事案内は5ページにもあります。



行事報告

1月9日(日) 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池

参加: 57名 天気: 快晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) この日の探鳥会は、音楽に合わせて噴水が踊り七色の虹がきらめく中で始まった。まずボートの桟橋付近で、10羽近いオオバンの群れを眼下にして、いち早くホオジロガモやヨシガモを見つけた人もいた。次いでハクセキレイの道案内で池を回り、浮き島が正面に来たところでホシハジロ、キンクロハジロ、マガモの群れに、1羽また1羽とトモエガモがスコープに入り、歓声が上がった。♂11羽♀5羽がいたとのことである。初めての担当で拙い案内であったが、穏やかな天候に恵まれて参加者ともども楽しめた1日だった。はるかなる空の果てより渡り来て入江に鴨の群れて憩へり (長嶋宏之)

1月9日(日) 千葉県船橋市 船橋海浜公園

参加: 28名 天気: 快晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ビロードキンクロ シノリガモ ホオジロガモ ウミアイサ ハヤブサ オオバン ミヤコドリ シロチドリ ダイゼン トウネン ハマシギ ミユビシギ イソシギ ダイシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ シジュウカラ メジロ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシブトガラス (35種) 絶好の鳥見日和! 穏やかな三番瀬で干潟の風景を楽しむことができた。沖にスズガモの帯。干潟ではミヤコドリの群れ。ハヤブ

サが出たときのハマシギの団子。み成鳥のビロードキンクロは珍しい。満点の探鳥会だった。

(杉本秀樹)

1月10日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加: 30名 天気: 快晴

コサギ オオタカ ハイタカ キジ タシギ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 落葉した木に止まるツグミ、シロハラをじっくり見られたが、アカハラは見えず、代わりにトラツグミが出現して探鳥会を盛り上げてくれた。 (石川敏男)

1月10日(月、休) 戸田市 彩湖

参加: 78名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオタカ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ ユリカモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) 風のない朝。寒くはないがカモの少ないのが気がかりのまま出発。だが、バン、シメ、ベニマシコと出て安心した。トイレ休憩中にヒメアマツバメ3羽が頭上10m位の所を5分ほど飛ぶ。釣堀脇のアシ原でベニマシコ♀を全員でゆっくりと。湖ではヨシガモ、ミコアイサも。トビ、オオタカも出て、終わってみれば48種。参加者の皆様に感謝の1日だった。 (倉林宗太郎)

1月16日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。

1月16日(日) 松伏町 緑の丘公園

雨のため中止。

1月22日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：9名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、島田貴子、藤掛保司、藤野富代

1月23日(日) 長野県 軽井沢

参加：45名 天気：曇、晴

トビ オオタカ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カワラヒワ オオマシコ ベニマシコ ウソ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 久しぶりの軽井沢。赤い鳥をターゲットに沢山の参加者が訪れた。目玉のレンジャクが長倉神社に不在。積雪約40cmをラッセルしつつ何とか抜け出す。三井の森から湯川にかけて軽井沢らしい鳥も出現し、ホッとする。星野温泉から塩壺温泉にかけても新雪で、歩行に苦労するも、暖かい温泉ロビーに無事到着し落ち着く。チョイお疲れ様の探鳥会であった。(町田好一郎)

1月23日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：55名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ コジュケイ キジ クイナ バン オオバン タシギ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 出発間もなく、アシ原にオオジュリン。じっくり観察。沼ではカルガモ、コガモ、それにハシビロガモ1羽。カモ類が少なくて寂しい。次にホオジロ、カシラダカ、アオジが出てくれ、いつも見られるホオジロ類が勢揃い。「アオゲラ！」と小学生が見つけてくれて、皆で観察できた。カケス、オナガの飛翔を見ながら、田んぼへ。タシギを観察し、探鳥会を終わる。(田中幸男)

1月23日(日) 狭山市 入間川

参加：20名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ホシハジロ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今回は人気者のカワセミ、他ではあまり見られないヒメアマツバメ、そして常連のイカルチドリやイソシギが流れて出てくれた。最後にはビンズイとルリビタキもよく見られた。唯一残念なのは、今年の冬もカモが少ないこと。近年、カモ類について、いい話しが伝わってこないのが気がかりだ。(長谷部謙二)

2月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：48名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ キジバン タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 調節池周辺の工事が本格化し、長年慣れ親しんだ差間コースも全面立ち入り禁止で、コースは廃止。次回より新たなコース設計をすることになる。気をとりなおしてヘルシーロードへ。冷たい風が吹く午後だったが、南側の斜面林では風もおだやかで、夕暮れ前の鳥たちの様子をじっくりと観察。(手塚正義)



1月23日 軽井沢探鳥会(新井勇吉)



●**全国一斉野鳥販売実態調査**

本部自然保護室から、バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査 2004 の報告書が届きました。全国で565店舗、埼玉県内では17店舗が調査対象になり、その内全国で251店舗、県内6店舗で野鳥が販売されていました。

メジロの販売確認数が5年間で1/20に減少しているのが目立ち、国内での密猟などの取締り強化、野鳥輸入停止国の拡大などが関係していると考えられています。

引き続き、同調査2005が5月10日から6月30日まで実施されます。詳しいことの間い合わせ、調査用紙の請求先は、(財)日本野鳥の会自然保護室野鳥販売調査係、〒191-0041 日野市南平2-35-2、TEL 042-593-6872、FAX 042-593-6873、hogo@wbsj.org まで。

●**「野鳥」5月号1万人プレゼント**

5月10~16日の愛鳥週間をきっかけに、バードウォッチングの魅力やノウハウなどを掲載した『野鳥』5月号を、会員以外の方にも、先着1万名に無料プレゼントします。

申し込み方法は、①住所、②氏名、③電話番号、④性別、⑤生年月日、⑥職業、⑦どこでこのプレゼント企画を知ったかを明記し、(財)日本野鳥の会5月号プレゼント係、〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階、FAX 03-5358-3608、nature@wbsj.org まで。

電話での受付はしていません。当会のプライバシーポリシーに基づき、個人情報、当会寄付行為に掲げる事業のためにのみ使用し、第三者に開示することはありません。

●**普及活動**

2月6日(日)と13日(日)の2日間、本庄

市都島地内旭公民館と利根川河川敷で開催された同公民館主催の親子自然観察教室において、町田好一郎が野鳥観察を指導しました。

2月11日(金・祝) 児玉郡神川町、神川元気プラザで本庄市内外の小学6年生の有志を対象に開催されたバードウォッチング講習会において、町田好一郎が指導しました。

2月20日(日) 比企郡小川町、小川元気プラザと周辺の金勝山で開催された野鳥観察会において、後藤康夫、青山紘一、大澤祐、北村隆が指導しました。

●**事務局の予定**

- 4月 2日(土) 編集部・普及部・研究部会議。
- 4月 9日(土) 5月号校正(午後4時から)。
- 4月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 4月17日(日) 役員会。

●**会員数は**

3月1日現在2,364人です。

活動報告

- 2月11日(金・祝) 本部常務会、理事会(海老原美夫)。
- 2月12日(土) 3月号校正(海老原美夫・喜多峻次・佐久間博文・山田義郎)。
- 2月20日(日) 役員会(司会:玉井正晴、評議員会傍聴人・鳥獣保護員推薦など)。
- 2月21日(月) 3月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

今年もあの森でフクロウに会えた。しかも同時に2羽! 昼間に鳴いていた。(山部)

そのフクロウに会う予定だったが、娘が、熱が出たというのですぐ帰宅。フクロウの誘惑もインフルエンザには勝てなかった。(藤原)

パソコンのウィルス対策は十分なはずなのに、メールを通じて感染してしまいそうなほど、インフルエンザの話が多い。(海)

しらこぼと 2005年4月号(第252号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社